

1 事業概要

事業名	一般国道376号 須々方バイパス 道路改築事業		
事業場所	周南市須々方本郷～須々方奥		
事業主体	山口県	事業方法	● 国庫補助 ○ 単独
財源・負担割合	● 国 55 % ● 県 45 %	市町 %	その他 %
事業期間	平成 10 年度 ～ 平成 23 年度		
総事業費	3,870 百万円		
事業目的	<p>一般国道376号は、山口市を起点とし、周南市を經由し、岩国市へ至る幹線道路である。</p> <p>当該区間は、周南市北部を東西に結ぶ幹線道路であるとともに、山口県地域防災計画の緊急輸送道路であるにもかかわらず、幅員狭小・線形不良区間があり、地域住民の安全で円滑な通行に支障をきたしている。</p> <p>このため、当該区間を整備することにより、安全で円滑な交通を確保するものである。</p>		
事業内容	<p>○延長 L=3.6 km</p> <p>○幅員 全幅12.0m (車道3.25×2=6.5m)</p>		

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時 再評価時
評価基準年	平成19年度
事業費	3,800 百万円
工期	H10年度 ～ H21年度
費用対便益比	B/C= 3.0

【要因変化の分析】

- ・ 事業費は、0.7億円の増額となった。
- ・ 工期は、約2年遅れた。
- ・ 費用便益比は、約1割の減少が見込まれる。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・ 当該バイパス区間の整備により、周辺地域から当地区へのアクセス性が向上したとともに、現道の事故件数が減少した。
- ・ 歩道整備により、児童をはじめとする歩行者等の安全を確保した。

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・ アクセス性が向上したことで、地域産業の振興に寄与している。
- ・ アクセス性が向上したことや、現道の事故件数が減少したことで、災害時の避難や救急・消防活動の迅速化・円滑化が図られている。
- ・ 歩行者や自転車利用者の安全性が向上し、道路交通環境が改善された。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

① 自然環境への影響

- ・当該バイパス区間の整備により、約4haの田畑が減少した。

② 生活・住環境等への影響

- ・自動車交通の多くが旧道から当該バイパス区間に転換したことで、家屋が連たんする旧道沿いの住民生活の安全性が向上した。

③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）

- ・事業地内に希少植物であるミツガシワが確認されたため、有識者の意見を聴きながら、事業地外への移植や濁水対策を実施し、生息環境の保全に努めた。整備後においても、ミツガシワの生育が確認されている。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

① 社会経済状況及び事業環境等の変化

- ・当該バイパス区間沿いに家屋や団地が立地するなど、周辺の土地利用が活発化している。
- ・須々万地区まちづくり推進協議会が、産業振興やイベント開催等を掲げた「すすま夢プラン」を平成27年度に策定し、まちづくりの取り組みを進めている。

② 関連計画・関連事業の状況の変化

- ・当該バイパス区間とあわせて道路ネットワークを形成する国道434号や県道下松鹿野線が平成17年度までに整備され、更なるアクセス性の向上が期待される。
- ・地元では、市の中央に位置する立地を生かして、バス路線の拠点化を目指している。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

(6) 改善措置の必要性

なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

なし

